

<b>1 学校教育目標</b> 「チャンス・チャレンジ・チェンジ」 ～本気の心を育てよう～	<b>2 本年度の重点目標</b> 1 確かな学力の育成 ～主体的に学習に取り組む態度の育成～ 2 豊かな心の育成 ～人として心豊かに生きる態度の育成～ 3 健やかな体の育成 ～健康安全の確保に取り組む態度の育成～ 4 自主・自立・自律の推進 ～活力のある生徒(会)活動の醸成～ 5 家庭・地域等との連携 ～信頼と期待される学校の創造～
-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標を具体的に評価するための評価指標を盛り込む

3 目標・評価							
①「確かな学力の育成」主体的に学習に取り組む態度の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・基礎・基本の定着と活 用力の向上をめざした 実践	・学習状況調査等結果 で、全教科全国・ 県平均を上回る。 ・活用力の育成をめ ざし、校内研究の推 進を図る。 ・家庭学習の充実を 図る。	・学習状況調査等の分析と課題の明確化と改善に向けての取 組みを行う。 ・学習の規律を徹底させながら、授業の中で活用場面を充実さ せ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・自習ノートの効果的な活用を示すとともに「テストweeks」を実 践させ、家庭学習が充実できるようにする。 ・漢検・数検・英検等、各種検定への200名以上の挑戦をめざ す。 ・図書館の本を年間50冊以上借りることを目標とし、読書活動や NIEの活動を推奨する。 ・各教科でデジタル教科書やタブレットの効果的な活用法を検 討し、積極的に活用する。	A	・これまでの活用力の研究を生かし、校内研究 では、教師が「学習課題」を提示し、「まとめ」「振 り返り」の提示をし、話し合い活動や学び合い活 動を取り入れた「活動の時間」を意識している。 このことで思考力・判断力・表現力が向上する 授業展開を研究している。その成果を、保護者 は授業参観等で確認しているようだ。 ・学習状況調査等の分析研修において、生徒の 誤答分析を行い、各教科の課題を明らかにする とともに、各教科、各学年における改善の取組 を行った。 ・各教科でのICT機器の利活用状況が伸びて いる。さらにタブレット端末の利活用について校 内の研修会等を開催する必要がある。	・「学習課題」と「振り返り」の時間の充実を行 うとともに、思考力・判断力・表現力を生かす 学びの機会を、単元計画を作成しながら進 める必要がある。 ・学習状況調査の分析と生徒の実態に合っ たさらなる授業改善が望まれる。 ・神埼の財産である「神埼プラン」「親学・子 学」を活用する機会を設定することで、改善 すると考える。学期初めのPTAにおいて、P Rするとともに活用した授業を行う必要がある。
②「豊かな心の育成」人として心豊かに生きる態度の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育、人権・同和 教育の充実 ・人権・同和教育の推進	・道徳の授業と教育 活動全体を通して心 を育む教育と規範 意識の向上を図る。 ・人権・同和教育の 推進を図る。	・学校行事を核にして体験を生かした道徳の授業や「神埼市4 か条の誓い」を具現化した授業を行う。 ・道徳教育実践校の研究会に参加し、各学年において実践をひ ろめる。 ・「ふれあい道徳」などを通して、生徒・保護者に規範意識・人 としての在り方を高める道徳の授業や人権集会、人権講話を実施 する。	B	・人権教育週間において、今の生徒にあった教材を 準備し、授業を行い、行動する大切さを身につけつ つある。 ・「いじめ防止宣言」の唱和を生徒朝会の際に、毎 回、生活委員長が中心となって行っている。今後も 継続して、言葉の重みを理解させていきたい。 ・道徳の授業の広がりが望まれる。来年度の「特別 の教科道徳」の完全実施に向けて、各学年での実施状 況の可視化などの取組が必要である。	・道徳は、教科書と生徒の実態に合った教材を計 画的に実施する。 ・人権週間等では生徒主体で行うために、教師が 共通理解しながら計画的にすすめていく。
	●心の教育	・すみそよあじの実践	・すみそよあじの実 践	・生徒会活動と連携し、千代田9か年の生活基盤であるすみそ よあじを実践させる。 ・「無言清掃」を徹底し、気づく心・がまんする心等を育てる。	A	・すみそよあじの重点項目を月ごとに設定し、生 徒、職員に周知して取り組んだ。 ・「無言清掃」の当初の目的である「静かにもくもく と掃除することは実現できているが、生徒に対し、 定期的な目的を再確認させる取組も必要である。	・「すみそよあじ」の徹底したときの姿を生徒に イメージさせ、実践させていく。徹底させていく。 ・「無言清掃」は、場所によってばらつきがある という声もある。いつでも取り組めるように、集合 の時間をうまく活用して徹底していきたい。
	●いじめの問題 への対応	・いじめのない学校づく りを目指した実践	・いじめの発生0を 目指し、いじめに関 する早期発見・早期 対応に努める。 ・自己肯定感を高 め、認め合う集団を 育成する。	・いじめアンケート調査や月ごとの生活アンケート調査を行い、 実態の把握に努め、早期対応をする。 ・支持的風土の醸成を図り、出番、役割、承認を意識した学級 活動・生徒会活動・行事の活性化を図る。	A	・2年2回保護者も対象にしたアンケートと月末に学校 生活アンケートを実施し、状況を把握している。気 になる事案については、早期対応を行っている。 ・始業式や終業式において全校生徒を対象に学年の 代表の決意や振り返りを発表する機会がある。こ のような機会を設定していることで、学校行事や生徒会 活動、学年行事などが活性化している。	・今後もアンケートを実施しながら、生徒の早め の対応を行っていく。 ・学年朝会等を生かして、生徒の出番を置くこ の機会を計画的に実施する。
③ 健やかな体の育成 健康安全の確保に取り組む態度の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づく り	・望ましい食習慣と食の 自己管理能力の育成 ・健康教育の推進	・関係機関と連携し ながら健康な心と体 づくりを目指す。 ・講演や部活動を通 じて、自分の体づく りに関心のある生徒 の育成をめざす。	・「おにぎりの日」「弁当の日」を設け、食事づくりの技能と感謝 の心を育てる。 ・「朝ごはん」の必要性を知らせ、喫食率を昨年度より高める。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進するために関係機関と連携 し、スマホ等を9時になったら保護者に預ける生徒を昨年より増 やす。 ・部活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方を保護者に知ら せ、実践をする。	A	・「食育講演会」を今年度も全学年で実施した。2年生 で朝ごはんを毎日食べている生徒は、100%で、昨年 より増加した。年に一度の「弁当の日」の実践は、生 徒にとって成果があった。「早寝、早起き、朝ごはん」 は、確実に行うことができている生徒が多い。 ・神埼市でとりかかっているスマートフォン等は9時に保 護者に預かってもらうことを徹底することで、さらに充 実すると思われる。 ・千代田中学校の部活動については、保護者の協力 のもと運営が円滑にできている。	・食育講演会を全学年で取り組んだことや、弁 当の日に学年別に条件を付けたことで幾分取り 組みやすかった。朝食の喫食率100%になるよ うに、今後も続けていきたい。 ・生徒のスマートフォン等の利用状況を定期的 に調査し、科学的根拠をもとに、使用方法や危険性 などを指導していく必要がある。
④ 自主・自立・自律の推進 活力のある生徒(会)活動の醸成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○活力のある 人づくり	・ボランティア活動の推 進 ・部活動・生徒会活動 の充実	・「すみそよあじ」 を言葉に主体的 な活動をめざす。	・自主性・自律性を育み、ボランティア活動を実践させる。 ・生徒会活動、係活動において、出番をつくり、自分の役割を自 覚し、主体的に活動させ、承認する機会を設定する。 ・部活動の顧問会議、キャプテン会議の実施を行い、生徒の主 体的な活動を行わせる。	A	・神埼市のクリーン作戦に年に2回参加している。1 回目は学校周辺を行う生徒が多かったが、2回目は 地域を行うようになった。そのため、教師は呼びかけと 確認を行う程度であった。具体的な行動指針である 「すみそよあじ」は、生徒に浸透しているが、保護者 の理解は昨年より得られていなかった。	・生徒会を中心にして主体的な活動になるよ うに計画的に行うよう指導をする。 ・日頃から、ボランティアができる生徒をめざすよ うに話をしていく。
⑤ 家庭・地域等との連携 信頼と期待される学校の創造							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方 針	・学校教育目標及び重 点項目の周知	・生徒、保護者への 周知を図り、保護者 の周知率90%を目 指す。	・全校朝会での校長講話を通して、生徒への周知を図る。 ・学校教育目標を受けて、各教師が自己の目標を設定し、日常 の教育活動を実践する。 ・保護者には、PTA総会や学級・学年PTA、学校便りを通して啓 発に努めていく。	B	・あらゆる機会に学校経営方針を伝えている。また、 学校目標を提示しており、生徒に浸透している。保護 者の意識が少なかつたが、啓発が必要である。	・学校便りに地域の回覧版で回覧するよ うに啓発を図った。さらに浸透するために、学年で 行う行事についても、「まちcomi」やSNS等のデジ タルコンテンツを使って啓発を図ることも考えられ る。
	●業務改善・教 職員の働き方 改革の推進	・校務等の効率化の促 進	・職員研修の活性化 を行う。 ・定時退勤日の実践 をする ・部活動の時間の見 直しを行う。	・職員研修の時間を明確にし、事前打ち合わせは資料を準備す ることで、限られた時間で有意義な研修にする。 ・定時退勤日の部活動の時間を見直し、部活動終了後30分 に実施を行う。 ・部活動の時間の見直しを行い、保護者に啓発を図る。	A	・佐賀県から出された「運動部活動の在り方に関する 方針」をもとに、土日のいずれかと毎週月曜日を部活 休養日に設定し、12月より完全実施した。	・土日および課業日の部活動休養日の設定は徹 底した。 ・部活動の活動時間等の変更に伴う保護者への 周知徹底を行う。
	○信頼される学 校づくり	・学校公開や授業参観 の場の設定 ・地域との連携	・授業参観日の保護 者数を昨年以上に する。 ・学校だよりやホ ムページで学校の 情報を知らせる。	・学校参観や土曜参観を含め、地域住民が参加しやすい学校 行事を実施する。 ・学校支援連絡協議会、学校保健安全委員、児童生委員、人 権擁護委員、校区内小学校との連携を図る。	A	・学校生活が充実していると回答した保護者と生徒は 9割を超えている。 ・学校参観や土曜参観などを紹介し、できるだけ多 くの保護者に来校できるように仕組んだ。 ・学校便りを月に1回出していることで、生徒の様子を 文字と写真で分かるようにしている。 ・現在HPに休日の部活動を掲載しており、平均で 60人ほどが見ている。HPもさらに充実させていく必 要がある。	・学校便りに頼ることが多く、学年便りや学級だ よりにしては、学年間で差があった。定期的な情 報を知らせる工夫を行いたい。 ・HPの更新については、担当者複数配置し、操 作方法等の継承が確実にいわれるようにする。
	○教職員の資 質向上	・教職員の資質向上お よび服務規律意識の向 上	・一人一役を生かした 教育活動を充実さ せる。 ・教職員が広い視野 を持ち、社会人とし ての自覚を持つ。	・若手教員を育てる意識を持ちながら、「初任者研修」「中堅教 諭等資質向上研修」を活用し、互いに高めあ う。 ・TT少人数授業、授業研究の実践を行い、研鑽することで互 いの良さを生かして、授業づくりに生かす。 ・服務等に関する研修や事例研究の機会を設け、服務規律保 持の自覚が高まるようにする。	B	・一人一役の校務分掌を担当し、責任を持って行 うことができた。また、今年度、新規採用者の初任研 修指導を生かして、充実させることができた。 ・学校で教育に関連する本を購入し、読み進めて いる。 ・東部教育事務所や関連機関から講師を招聘し、見 聞を広めた。	・個人でのスキルは、研修等であつているが、 それを広める機会が少ない。機会を設定して、情 報を共有する機会を設定していく。
	○生徒指導	・生徒指導の充実	・問題行動の発生0 を目指し、「報告、連 絡、相談」の確実な 実施と開発的生徒 指導を行う。 ・不登校生徒の減少 をめざす。	・最低月1回の生活アンケートの実施と早期対応を行う。 ・連絡、報告、相談の迅速対応の生徒指導を行う。 ・不登校生徒の減少を目指し、SSW、SC、支援員、関係機関等 との連携を深める体制を築く。	B	・問題行動については、生活アンケートや緊急ア ンケート等を用い、実態を把握し早期に対応している。 ・不登校気味の生徒に対して、SCやSSWと繋いで おり、孤立しないようすすめている。生徒の気持ち を高めて登校できるようにすすめていかなければなら ない。	・全体的には落ち着いた学校であるが、不登校気 味の生徒が多いことが課題である。教育相談部 会の話し合った生徒の様子を視覚化して伝えるよ うにして、全職員に共通理解をして、取り組んでい く。
	○地域の特 色を生かした教育	・地域学習教材や地域 人材の活用	・総合的な学習の時 間での体験活動を 実施する。	・「次郎物語」の読書週間を設定するとともに、「次郎物語」を 使った道徳の授業を行う。 ・1年生の総合的な学習で、「地域訪問」や「神埼の偉人35」等 を活用し、郷土学習の充実を行う。	B	・12年生の総合的な学習においては、神埼のふるさ と学習や職場体験において地域の人材や地域の学 習環境を活用することができた。韓国交流について、 学校全体で取り組んだ。1年生は神埼市のふるさとマ イスターで6名が入賞した。 ・「次郎物語」については、読書週間を設定し、読むこ とができた。	・地域の人材を活用することができたが、「神埼 の偉人」について、1年生の総合的な学習の時間に 計画的に活用する必要がある。
○安全管理	・保健安全の推進と 安全体制の確立	・安全教室や避難訓 練の実験を通し、 交通事故、生活事 故の発生0を目標 とする。 ・施設、設備の管理 の徹底を図る。	・登下校時における交通安全指導を定期的に行う。 ・月末の安全点検を実施し、対応を行い安全環境作りを行う。	A	・スケアドストリートによる「交通安全教室」を行 った。また、2学期の土曜授業参観にあわせて、「交通 安全講話」を実施した。その際、地域の危険場所を示 し、注意喚起をおこなった。また、教師が定期的に交 通安全指導や地域の巡回を行うことで、交通安全に 努めた。 ・月末点検は、確実に行うことができた。異常があ れば、すぐに対応することで、設備の管理に努めた。	・自転車のマナーは概ねよいが、部活動帰りに並 進で帰宅する生徒がいる。この点について、生徒 会の安全委員会から、問題提起し改善するよ うにすすめていく。	

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
授業では「学習課題」「まとめ」「振り返り」を行い、学力の向上を図った。授業だけではなく、テストウィークスを実施し、「計画・実践・振り返り」を確実に実行するよう指導してきたが、徹底できなかった。生徒指導の課題は、不登校対応である。教育相談部会にSC、SSW、適応指導教室担当者、市教育委員会指導主事から助言を頂いて対応している。部会で対応策について協議しており、対応しやすくなった。全職員で地道に取組み、不登校生徒を減らしている。また、スマートフォン・タブレット利用が多くなり、生活のリズムに影響を与えている。生徒が作成した利用宣言を実践させるためには、保護者の協力も必要である。今後、啓発も進めていきたい。  
信頼ある学校づくりについては、まずは学校生活が充実していることである。学校生活の具体的な行動指針「すみそよあじ」にも生徒は自主的に取り組んでいる。学校が取り組んでいる情報を公開していき、信頼と期待される学校作りを行っていく。また、道徳の教科化にむけて、心の教育の充実を図ってきたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目